

学校における音楽科授業（器楽指導）時の 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

1 日常の対策

(1) 体調管理の徹底

- ・以下に該当する項目に該当がないか、健康観察等で確認する。
 - ① 平熱を超える発熱（37.5℃以上）
 - ② 咳やのどの痛み等の風邪の症状
 - ③ だるさや息苦しさ
 - ④ 身体が重い、疲れやすい

(2) 対策の周知

- ・音楽科授業で器楽指導の対策をあらかじめ児童と保護者に周知し、理解を得て活動を行う。

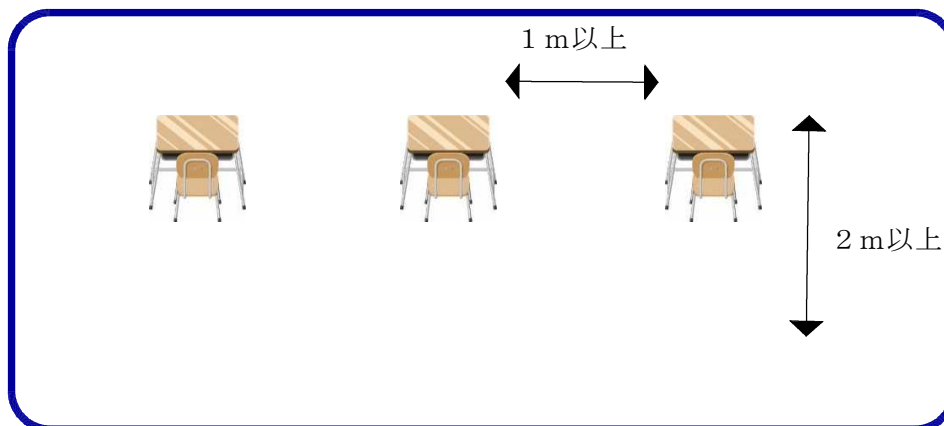
2 授業場所の対策

(1) 窓と出入口は常時開放とし、換気を行う。

- ### (2) 椅子やピアノ、キーボード、CDプレーヤー等の共用機器は、授業が終わるごとに消毒を行う。※ピアノの消毒はアルコールを使用せず、専用のクリーナーを使用する。（「ピアノの除菌方法」http://yamaha.custhelp.com/app/answers/detail/a_id/1460）

(3) 机・椅子は、同方向に向かって市松模様に並べ、向かい合う隊形は避ける。

(4) 児童間の距離は、前後2 m以上、左右1 m以上確保する。



3 器楽学習の授業における対策

(1) 授業の前後に必ず手指の消毒もしくは石鹸等での手洗いを行う。

- ### (2) リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の吹奏楽器の学習において、楽器を演奏したり練習したりするときはマスクを外すことになるが、その際には発言や話し合い活動は行わない。演奏したり練習したりするとき以外はマスクを必ず着用する。

(3) 打楽器等の飛沫のリスクが低い学習においては、常時マスクを着用する。

- ### (4) リコーダーや鍵盤ハーモニカで水抜きをする際に飛沫が大量に飛散するため、次のとおり配慮する。

- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカ使用時は、タオルやティッシュ等を楽器の底部延長面に敷き、飛沫が直接机や床に溜まらないようにする。



<水抜きについて>

- ・リコーダーは水抜きを行わず、掃除棒にティッシュ等を通し、管内部の水分を拭き取る。
- ・鍵盤ハーモニカの水抜きをする場合は、水抜き口にティッシュ等を当て、管内部にたまった水が飛散しないようにした上で水抜きを行う。



※ 使用したティッシュは通常のゴミ箱に捨てず、専用のゴミ箱またはビニル袋に集め密封して捨てる。また、タオル等の布の場合は、教室内に放置せずビニル袋等に入れて自宅に持ち帰り、定期的に洗濯する。

(5) 各楽器の手入れについては、次のとおり行う。

- ・リコーダー及び掃除棒は、定期的に自宅に持ち帰り水洗いを行う。学校内で水洗いすることは避ける。(アルコールを染みこませた布等で拭いて消毒することも考えられる。)
- ・鍵盤ハーモニカは、本体を水洗いすると、内部の金属製リードが錆びるなどして故障の原因となるので行わない。
- ・鍵盤ハーモニカの唄口は、立奏用・卓上用(ホース)共に、アルコールを染みこませた布等で拭いて消毒する。また、定期的に自宅に持ち帰り唄口やホースを中性洗剤で洗う。学校内で水洗いすることは避ける。
- ・楽器使用後は、手入れを済ませたらすぐにケース等に片付ける。

(6) 身体的な接触を伴う活動は行わない。

(7) 咳エチケットを実践する。

(8) 楽譜やプリント類の共有は避ける。

4 その他

- (1) 校内での感染が疑われる児童が出た場合は、音楽科の授業はもとより、全教育活動において、児童の行動や活動についての情報提供が求められる。実施上の対策について明確にしておくことが大切である。
- (2) 対策が十分にできない場合や、校区内に感染者が発生した場合には、実施を見合わせる。

(参考)「管楽器・教育楽器の飛沫可視化実験」

https://jp.yamaha.com/products/contents/winds/visualization_experiment/index.html

(監修)

市村 昇悦(しむら小児科クリニック院長)